



羽衣なごう 桜の香の花見人し
里豊

瀾^雲りて、まるとぬせぐ 敬系
車押

即席の越白の丈の祝^下う
一林

くさつてと合ふ所ま鹿下
兼笑

又二盃ハなる根の香かみ押へらまじ

投危

高イ切老集ハま業ナ

奏求

満月と竹ハ里道づれ水陸

齋

京ハの記ハいふのこハく

執業

ウ

糸ハはハ京ハの次ハ月ハ中ハ焼ハケハぬハもハ國ハの美

櫻矢

惣ハ程ハもハさハうハ石ハ打ハケハガハ茶

牽

頂ハハハ不ハ知ハ欲ハ心ハとハ忘ハるハ山

筑

小ハのハ下ハ宮ハとハ上ハげハりハしハるハ暖

衆

閑帳の虚言積善の餘愛し
蘭臺

子のあはれと業心少く笑
翠

借ス氣をらしは草花と教ふる
鶯

杖はく乃とを如て秋情
墨

の、白と指とさうは月
壽

ウツゴの下弦の照く光明
蘭

少鳥の危と一僕と指と
秦

庭より猫がなまきて
一林

團てこもる内う花し園果張

仙杖

真山吹と回柱の位達

投巻

梅子の目い光うも急がら

傘中

茶店の妻ありと何の摩の姑の

桃矢

小使のまきぬ人の基のこのん

糞

いふ所の草のみの弁の柄の持のチ

仙杖

吹の時のきの方の店の積のり

磁加

アサの花の友のとの虫

扇

雲
月出く露の行送る
藪

雲
加田の海勢ハ秋葉みちる
蘆

雲
雲のくもやこく穴賢か
瘦
藜

雲
穀氣と折蟬
始の賢
一林

雲
勝岡トキ女
岨コトと揮聲
投危

雲
埃海隣
軍志義城
糞

雲
古井コイの何湯ナニユと心ココロをわめ
齧

雲
詢く洲言シマコトなふて山ヤマ瓦
藪

雪 幸のハ今は娑婆娑(新羅)

墨雪

肥て長と墓(女)住大

櫻大

持て来と(女)心(女)念の

蠅

髪

室の求(女)と競(女)王(女)人

仙死

雪 破獲せー塩(女)元(女)の(女)一物

投色

切られた(女)法(女)白(女)佛(女)果(女)切(女)了(女)石

連柳

強(女)女(女)牛(女)月(女)流(女)着(女)字(女)也

仙水

雪 治(女)て(女)寝(女)ぬ(女)苦(女)女(女)代(女)る(女)法(女)虫

養中

蘭臺
一ノキヨ
雲田

雲田の志 涙やら流るる

蘭臺

墨
墨田の志 胸に三界を

墨

碧
胸に三界を

碧

集
花の節がさす 一日の遠

集

仙
花の子の別を

悟氣
同志

仙

雙
花の節がさす 和田が

雙

集
花の節がさす 和田が

集

楓
花の節がさす 除夜の拍子

楓

前 慈悲の故に 歎す 池

一 杯

芥子と 目又 飯の 香

一 杯

袂 キヨ と 横 小 拍 馬 車

一 杯

し しの 香の 氣の 毒の 亭

一 杯

慈 純 寺 の 大 心 子 寺

一 杯

は 押 神 藏 此 珠 紋

一 杯

清 涼 と う せ て 行 ぬ ち ぞ

一 杯

娘 如 と 口 々 々 々 財 録 の 腹

一 杯

妹 シメ 子 コ 古 コ お オ 美 ミ 妻 ツメ や ヤ 強 ツヨク け ケ

櫻

く ク り リ ー ー ー ー ー ー ー ー 小 コ 女 メ

霞

世 セ の ノ 中 ナカ と ト ぎ ギ の ノ ぬ ヌ け ケ 須 ス 地 チ の ノ 暗 クマ

墨

五 イ 文 ブ 字 ジ が ガ 女 メ と ト 勢 セ を ヲ 大 オホ 元 ノチ

衆

近 チカ 侍 サマ ー ー 二 ニ 顧 カミ の ノ 草 クサ 鞋 ツクリ 梅 ウメ 花 ハナ

仙

心 ココロ 中 ナカ へ ヘ と ト 女 メ 志 シ 志 シ 点 ツキ 滴 ツル

傘

胸 ムネ の ノ 洞 アナ 口 クチ の ノ 風 カゼ 一 ヒト 人 ト 連 ツラ

霧

引 ヒキ と ト 洞 アナ を ヲ ぬ ス と ト 巡 メグル 狩 カゲ の ノ 後 ノチ

鏡

卷のふにほごまこぬきま

蘭

夏膚小角と持て出

翠

勤功の祿ハ^{ナヨ}籓の^{タケ}解と借

投

^{タケ}暹^{タケ}——いふていざぐ^{タケ}折子

衆

^{タケ}玄^{タケ}子——^{ゴタイ}西院の漏ハ五太院

一

低^{タケ}所も^{タケ}折^{タケ}く^{タケ}て^{タケ}き^{タケ}る^{タケ}て^{タケ}の

衆

巴^{タケ}中^{タケ}ク^{タケ}東湖の^{タケ}外^{タケ}の^{タケ}恨^{タケ}浪

投

^ト文^{タケ}の^{タケ}卷^{タケ}く^{タケ}る^{タケ}海^{タケ}の^{タケ}舞^{タケ}王

投

花昔ハナノコト 十善寺ジュゼンジ 白と友 娘ムスメ

位巧イタク の実ミ 雛ヒナ 娑羅門シャロモン 里サト

津母ツモ の人相ニガハシ 女メ の涅槃ニハツ 盆ハシ

指ササ で作ツク る代トコロ の鮎アヲ の子コ 拳ケン

升シヨウ 空カラ 籠カゴ 女メ のお苗オモ 桃モモ

蛸タコ のうらうらウラウラ 女メ の業ノノ の恋コイ 器キ

五百イッパツ 蔵ザウ のお好オウコウ 女メ の白シロ 兜ツツミ

津ツ 煙エン の娘メ と今イマ の蓬フシ 菜ナ 蘭ラン

山崎と乳の味はきくた

仙水

かりゆけのやうに薄園後

扇

心月のまじりたる花を御覧
て

蘭

禁
たて懸石のまじり
形

柳矢

月
物がいと風の中そぐ牛と喰

墨壺

瓶てはらぬあこころあり

炭

揚とせぬ細い玉とす涼月

投危

琴のまじりたる
一門の靈

壽

獨^レ此^レ川^レわづた^レで^レま^レも^レ流^レ紅^レ粧^レ
器

人^ノの^心と^もど^も悔^レ心^レ仲^レ人^ノ
嬖

朝^ノの^腮一^レ函^ノあ^レる^レや^レら^レる^レ史^ノ
筆

片^ノ回^ノの^碎一^レ止^ノの^依枯^レ
笔

そ^ノ何^ノめ^ノ凡^ノの^まく^レく^レや^レら^レる^レ
筆

そ^ノ何^ノめ^ノハ^ノ智^ノ者^ノも^レ唐^ノ也^ノま^レる^レ
一^レ板

そ^ノ何^ノめ^ノの^眼ハ^ノ山^ノ家^ノの^後也^ノ
衆

蝶^ノの^丘ま^レる^レや^レら^レる^レ一^レ板^ノ
筆

印

評

陳



切
續句
佛果
增



各七句 皆点

四、点
連栳 隱 五字 聖 三 朱

三十二、
蘭臺 三字 聖 二 朱 長

三十一、
舜中 花 二 朱 二 長 二

二十六、
里雪 月 二 聖 朱 長

二十五、
一林 月 二 朱 三

二十三、
投危 月 聖 朱 三 長 二

二十一、
桃花 花 朱 二 長

十八、
仙花 月 聖 長

十七、
玉洲 聖 朱 三 長

十七、
理嘉 聖 朱 三 長 三

十四、
龍雨 聖 長 三

十二、
姬奠 聖 長

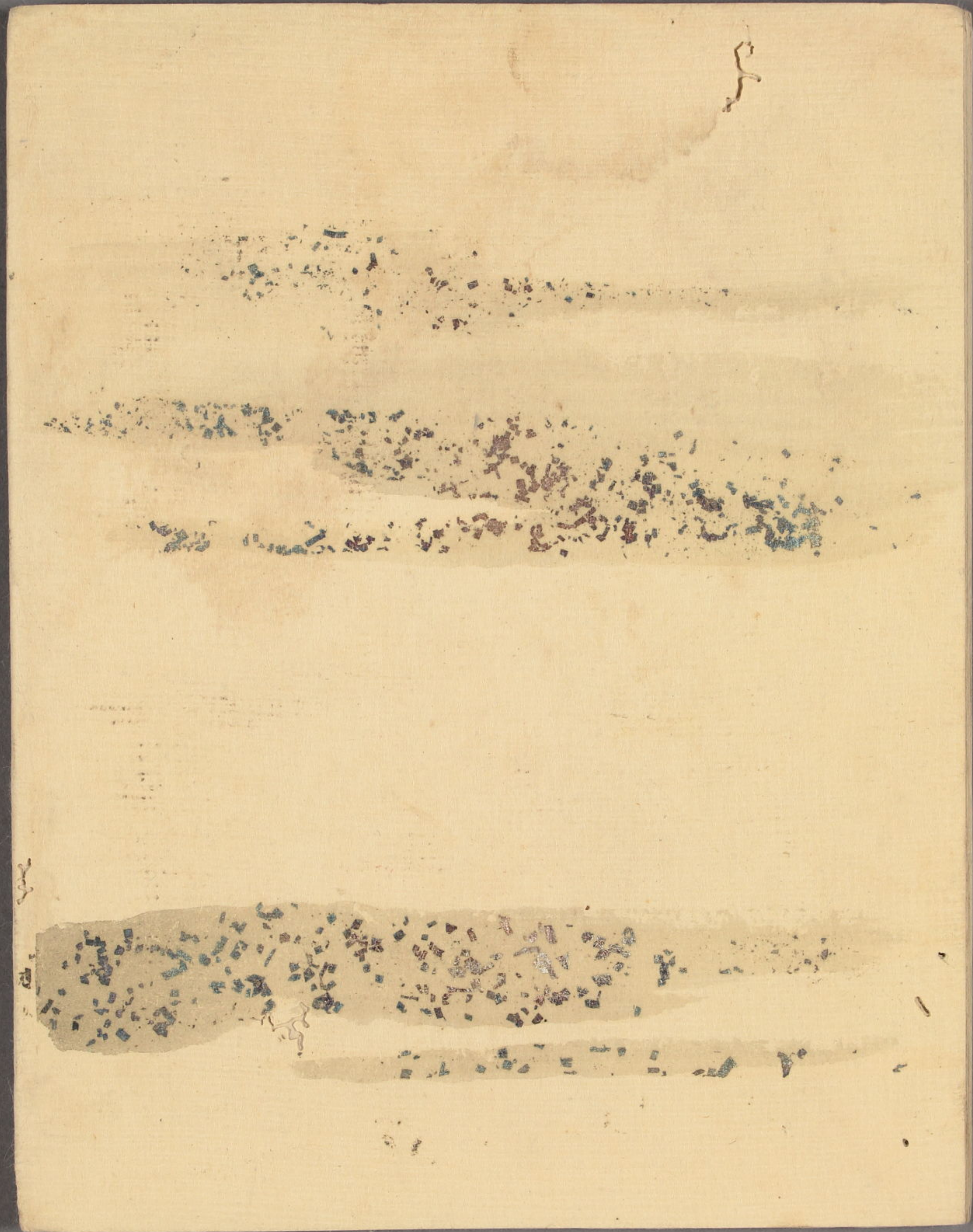
十一、
仙水 朱 長

七、
養水

執筆二句点

享保十四己酉年十一月廿八日於白屋敷奥行





下

百類

千葉

後志少佐

享保十四年丁巳酉
十一月二十八日於向屋敷

下
後樂

上
下



斗

四

享保十四酉十月